

金森久雄

改訂

入門日本経済

●これからの経済を考える



中央経済社

中央経済社

金森久雄

訂改
入門日本経済

●これからの経済を考える

改訂 入門日本経済

●これからの経済を考える

〈著者略歴〉

金森久雄（かなもり ひさお）

1924年 東京に生まれる
1948年 東京大学法学部政治学科卒業
1948年 商工省（現在の通産省）入省
1953年 経済審議庁（現在の経済企画庁）へ出向
1958—60年 英国オックスフォード大学ナッファイ
ールド・カレッジ留学
1964—67年 経済企画庁調査局内閣調査課長
1967—70年 日本経済研究センター主任研究員
1970—73年 経済企画庁経済研究所次長
1973年 日本経済研究センター理事長
主要著書
「日本の貿易」（至誠堂）1961
「経済成長の話」（日本経済新聞社）1962年
「日本経済をどうみるか」（同上）1967年
「日本経済の新次元」（同上）1972年
「成長活用の経済」（東洋経済新報社）1975年
現住所 東京都豊島区南大塚1—4—5 170

昭和52年9月10日 初版発行
昭和54年5月10日 第3版発行
昭和55年4月5日 改訂版発行
昭和55年5月1日 改訂版2刷発行

著者 金森久雄

発行者 渡辺正一

発行所 （株）中央経済社

東京都千代田区神田神保町1—31—2
〒101 電話（293）3371（編集部）
（293）3381（営業部）
振替口座 東京 0—8432

印刷／厚徳社
製本／誠製本

© 〈検印省略〉

1033—512818—4621

はしがり

かなり頭のいい人が、経済については時々ヘンなことをいう。数年前、「日本はGNPでは世界第二位だが、一人あたり国民所得では二十位で大きな矛盾がある。これは日本が、国民を無視した高度成長政策をとっているからだ」という説がある雑誌にあらわれた。この二位と二十位の矛盾という学説は大流行し、いろいろな人が政府の批判にこれを使った。だがこれは矛盾でも何でもない。

日本は一億をこえる大人口国だから、GNPでは二位でも、一人あたりにすれば、人口五千万や二千万の国よりも所得が小さくなって少しもおかしくない。一人あたりで二位になるためには、もっと高度成長をしなければならなかったのだ。このほか、為替レートや国債などについて、経済学の常識からみて随分おかしいと思われる議論が通用している。

この本は、日本経済の入門書である。そうむずかしいことが書いてあるわけではないが、本書を読めば、二位と二十位の矛盾などというおかしい説に迷われないぐらいの効能はあるはずだ。

本書の第一章から第三章までは、日本経済についての基本的な見方を説明した。第四章から第八章まではその応用であり、成長と福祉の関係、世界経済との結びつき、円高、エネルギー・資源問題、インフレ、産業構造等を議論した。第一〇章以下では、とくに将来の問題に重点をおき、石油危機後も基本的な成長力はおちていないこと、成長力を活用するためには、国債に関する考え方を根本的に変える必要があること、低成長が続けば、日本人が十分能力を発揮する機会が得られないという大きな問題が起る心配があることを述べている。

入門書といってもいろいろな書き方がある。基礎的事実を中正穩健に解説するということも大切だ。私は、香西泰氏との共編で、東洋経済新報社から『日本経済読本』を出しているが、それは、こうした立場で書いたもので本書と併読して下されば幸である。この本では、それとは違って、私の意見をかなりはっきり書いた。それは、日本経済は強い成長力をもっており、それを活用することが大切だという考えである。これについてはいろいろ違った見方をもつ読者もあると思う。

経済学は数学や物理学とは違う。万人が認めるような公理や定理はあまりないから、入門書でも、論争点を避けるわけにはいかない。

読者は、私の意見にとらわれず、これを材料にして、自分の考えを確立されたらよいと思う。平板な全般的解説を読むよりも、主張をもった本を批判的に読む方が、かえって、問題の本質を

自分の頭ではつきりつかむことができるものだ。

本書の中には『日本経済新聞』『週刊東洋経済』、『経営者会報』、『景気観測』に発表した論文が含まれている。再録を許された関係者に感謝したい。

昭和五十二年八月

改訂版について

本書の初版は、昭和五十二年九月に出たが、その後の変化をおりこんで二回改訂した。今回は三回目の改訂でかなり大幅に手をいれた。その結果、他の章とGNPの数字等で多少喰違うものも出てきたが論旨に影響がないので他の章はもとのままになっているところもある。

昭和五十五年三月

金 森 久 雄

目次

1 日本経済の疑問点

- (一) なぜ日本経済は成長したか・2
- (二) 経済問題を考えるために・4

2 経済成長の見方・考え方

- 1 日本の経済はどのように成長したか……………8
 - (一) 経済成長率が語るもの・8
 - (二) 成長率の比較・12
- 2 経済分析の方法……………13
 - (一) 経済学者の分析方法・13
 - (二) デニソンの分析法とその問題点・16

(三) ジャーナリストの分析方法・21

3 成長力をめぐる論争……………24

4 成長をささえた日本人の特色……………26

(一) 同一民族の文化・26

(二) 高い教育水準・28

(三) 日本企業の体質・30

5 経済政策の目標をどこにおくか……………32

(一) どのような成長が望ましいか・32

(二) 成長の成果の活用・33

(三) 今後の政策の課題・35

6 経済政策の決定者……………38

(一) 必要な近代経済学とマルクス経済学の接近・38

(二) 経済活動の決定者・40

3 成長はなぜおきるか

1 経済のつかみ方……………44

目 次

2	需要の役割……………	55
	(一) 日本が必要の現状・55	
	(二) 高所得者が説く成長不要論・56	
	(三) 消費と投資のどちらを刺激するか・57	
	(四) 成長の動力は設備投資・58	
	(五) 消費の役割・60	
	(六) 低い輸出比率・61	
	(七) 政府支出と成長・62	
3	供給力の評価……………	63
	(一) 労働力の増加・63	
	(二) 高い資本蓄積率・65	
	(三) 新技術の導入・69	
4	所得の増大と分配……………	71

4 経済成長なくして福祉はない

(一) 国民所得・71	
(二) 国民所得と国民総生産・72	
(三) 一人あたりの国民所得の意味・74	
(四) 地価上昇と国民所得・75	
(四) 所得の分配・76	
(六) 所得分配の国際比較・78	
1 NNW（国民福祉指標）とは何か……………	83
(一) 福祉ははかれるか・83	
(二) 役立つものは活用すべし・85	
2 国民福祉指標（NNW）の定義……………	86
3 実証を欠いた反成長派の主張……………	90
4 真理は蟻とキリギリスの中間に……………	94
5 限界にきた低成長・高福祉……………	100
(一) 高成長の余熱・100	

5 世界経済の中での生きる道

(一) やはり成長が前提に・ 103

1 自給率向上は可能か…………… 106

(一) 日本の輸入依存度・ 106

(二) あまりに狭い国土・ 110

(三) むずかしい輸入依存度の引下げ・ 111

(四) 国の安全をどう守るか・ 112

(五) 貿易規模の拡大・ 114

2 重要な輸入の拡大…………… 116

(一) 輸入の諸問題・ 116

(二) 世界に波及する日本の成長・ 120

(三) 天然資源・食糧の輸入・ 122

(四) ローマクラブの主張・ 124

(五) 産業構造の変化と輸入・ 125

(六) 海外資源の開発・ 127

6

為替レートの考え方

3	輸出拡大の条件……………	133
	(イ) 八方破れの構え・129	
	(ロ) 新国際経済秩序はできるか・129	
	(ハ) 輸出の諸問題・133	
	(ニ) 世界経済との調和・133	
	(ヘ) 輸出の秩序・135	
	(四) 国際的なバランス・136	
1	円的大幅変動……………	140
2	変動の理由……………	141
	(一) 購買力平価説・142	
	(二) 国際収支説・143	
3	適正レートとは何か……………	144
4	為替レート的大幅変動のマイナス……………	146
5	為替安定対策を考える……………	148

7 資源問題のもう一つの視点

1	石油危機をどう克服するか……………	154
(一)	有限性の問題……………	154
(二)	地域的偏在性……………	156
(三)	不可欠性……………	157
2	日本のエネルギー需要……………	157
3	エネルギーの供給……………	161
4	エネルギー問題克服の道……………	161
5	資源をめぐる四つの不安……………	166
(一)	日銀の介入……………	148
(二)	金利の変更……………	149
(三)	短資流入に対する規制強化……………	150
(四)	緊急輸入……………	150
(五)	輸入自由化・関税の引下げ……………	151
(六)	成長率の変更……………	151

8 インフレのない成長

6	資源問題を解決する道……………	176
(一)	一国だけの解決はむずかしい・	176
(二)	国際的な解決法・	178
(三)	日本の場合・	179
(一)	量的不足はあるのか・	166
(二)	価格による埋蔵量の変化・	168
(三)	価格は騰貴するか・	171
(四)	成功しにくいカルテル・	172
(五)	カルテル成功の条件・	174
1	重大化したインフレ問題……………	182
(一)	インフレと経済成長の関係・	182
(二)	インフレの原因・	184
2	新しい物価対策……………	186
(一)	政府の物価政策・	186

9 産業構造はどう変わるか

- (一) 物価上昇の三原因・187
- (二) 多面的な物価対策・190

1 高度化する産業構造……………200

- (一) 産業構造の変化・200

- (二) 産業構造をきめる力・204

2 産業構造の未来像……………205

- (一) 将来の産業構造・205

- (二) 知識集約的産業とは何か・208

- (三) 産業構造転換の方向・209

10 危機を乗切った日本経済

1 乗り越えた六つのハードル……………214

- (一) 依然、高成長能力を持つ・214

11

国債についての正しい考え方

1	増加する国債……………	238
(一)	急上昇した国債依存度……………	239
(二)	国債発行の今後の見通し……………	242
2	国債についての論争……………	244
(一)	袋小路に入りこんだ借金財政……………	244
(二)	財政バランスの回復策……………	246
(三)	公債増発反対論への反論……………	247
(四)	旧式経済学の通説から出よ……………	252
2	日本は、ひよわな花ではない……………	225
(一)	プレジンスキーの悲観論……………	226
(二)	持続する成長要因……………	229
(三)	注目すべき四点の動向……………	234
(一)	日本経済のパフォーマンス……………	221
(二)	危機克服の理由……………	222

12

“団塊の世代”の政治経済学

1 中年層の増大……………	256
---------------	-----

(一) 出生時の選択を誤った(?)人々……………	256
--------------------------	-----

(二) ミドルの大バーゲン……………	259
--------------------	-----

2 積極的な解決策……………	261
----------------	-----

(一) 団塊の世代に潜む政治エネルギー……………	261
--------------------------	-----

(二) シメガネをかけたドブネズミか……………	262
-------------------------	-----

(三) 高成長こそ最良の政策選択……………	264
-----------------------	-----

13

繁栄への道

1 安定成長の条件……………	272
----------------	-----

2 需要の増大……………	273
--------------	-----

3 財政赤字で対応誤る……………	275
------------------	-----

4 難しい構造問題の解決……………	277
-------------------	-----